

高野七口活性化プロジェクト 成果報告書



指導教員

尾久土正己・児玉康宏

プロジェクトメンバー

朝木彩加・家谷翔太・市川伊織・今井寿樹・岩井志文・梅田晃輔
太田真里亜・木岡大湖・酒井拓夢・佐藤味礼・島村紗良・下中遼太
土佐京平・荷宮野乃花・野尻野翼・松尾衣絹・森下祐衣

2012 年度

● 概要

高野山には、七つの入り口(高野七口)へつながる参詣道があるが、世界遺産に登録された町石道以外はあまり注目されていない。そこで私たちは来たる 2015 年春に行われる高野山開創 1200 年記念大法会に向けて、若者にも高野山への関心が集まるために、また高野七口周辺を活気のある場所にするために活動を行ってきた。若い力で高野七口周辺を盛り上げ、またそのために試行錯誤していくなかで、地域再生・観光経営の両面において学習することが目的である。今年度の主な活動として、私たちは月に一回、高野七口周辺を訪れ高野山についての知識を深めてきた。また積極的に高野山で開かれるイベントをリサーチし、ボランティアスタッフとして参加した。活動後は、毎週行う会議の場でメンバーに報告し、Facebook や twitter などの SNS を通じて多くの方へ活動内容の拡散・共有を欠かさず行ってきた。最終イベントでは、実際に和歌山大学の学生を高野山に呼び込むことに成功し、目標へ一歩近づくことができた。

● 今期の目標

今期から始動したプロジェクトということもあり、メンバーの誰もが高野山のことをよく知らなかった。そこで、高野山の知識を増やし若い私たちの目線から高野山の魅力を発見することでどうしたら若者を集客できるのかを考えられると思ひ、高野山全体の知識を増やすこと、またその魅力を見つけることを目標に活動してきた。

● 活動内容

2012年7月13日	第一回調査
2012年8月13日	高野山ろうそく祭りボランティア参加
2012年9月21、22日	高野山学 オペラスタッフ参加
2012年9月22日	高野山学 ウォークイベント・講演参加
2012年10月～11月	最終イベント企画準備 下見・準備
2012年11月10日	カセサート大学附属校のタイ人学生 町石道案内
2012年12月1日	森林鉄道イベント 参加
2012年12月1日	最終イベント 「ばあむ。」主催ウォークイベント

・第一回調査

極楽橋から高野山奥ノ院までの道のりを歩き、「ばあむ。」として初めての現地調査を実施した。当日は千日前祭の日が近く多くの方と出会ったが、やはり高齢の方が多く、若者離れが深刻化していることを実感した。また、女人堂では案内人をしての方に貴重なお話を聞くことができた。全体を通して、想像より高野山への道がきれいであったり、木造のゴミ箱で景観が守られていたりという良い点もある中、高野山を訪れる若者が少ないことや、歩くには危険な道があったりと、発見の多い調査となった。ただ、当日になってのメンバーの急な欠席が問題となり、メンバー内の連絡をしっかりとし、一人一人が自覚を持って行動するように意識していくことを話し合った。その後も現地調査を行い、合計十回の高野山の調査をした。調査を繰り返す中で、普段の観光では意識して見ない部分を見たり考えたりすることができ、観光地を地域再生の観点から見る目を磨くことができた。



・高野山ろうそく祭りボランティア参加



高野山の伝統行事であるろうそく祭りにボランティアスタッフとして参加し、ろうそくに火を灯す作業から、ろうそくを配る作業、誘導など様々な経験をした。当日は来客数がかなり多く、大阪や京都、滋賀など地方から来た方々、外国人の方や家族連れの方も多く、伝統行事の認知度の高さを感じた。ろうそく祭り実行委員会の方々をはじめ、地域の方々の優しさや温かさに触れ、高野山の知識を増やしもっと地域に貢献したいと強く思う活動となった。何より地域の方と交流し関係を持てたことは私たちにとって大きな成長である。しかし、終電の都合で祭りを実際に見る

ことができず、活動も途中で抜ける形となってしまい、時間に左右されないように前持って宿泊することを決めておけばよかったと反省し、これから改善していこうと思った。来年がこの祭りの四十周年記念であるので、今回の経験を活かしてまた参加したい。

・高野山学 ～オペラスタッフ参加～

高野山で開催された高野山学の一つ、創作ふるさとオペラ「石童丸ものがたり」のボランティアスタッフとして参加した。前日準備から参加し、当日も舞台の最終調整から受け付けや黒子の仕事も行った。今回は高野山小学校の児童も含め、約六百人の観客が来訪する大きなイベントであった。最後には監督さんの粋な計らいで、オペラ終了後のカーテンコールの際にメンバーも舞台に上げてもらうという貴重な体験や、スタッフとしての経験ができ大変有意義な活動だった。雰囲気緊張しながらも大舞台での仕事が成功したことは、自分たちの自信となりこれからの活動意欲が向上した。



しかし、担当者の方との事前連絡が不十分だったために、当日になってから焦って質問し、バタバタしてしまうことがあった。このような大きなイベントでは担当者ともう少し早くから連絡を取りあい、お互いの意思疎通をはかるべきだと学んだ。

・高野山学 ～ウォークイベント・講演～



ウォークイベント「いにしへの不動坂を歩く」に参加した後、講演「高野七口の個性」で高野山について学んだ。第一回調査では大正時代に作られた新しい不動坂の道を登ったが、今回は江戸時代に使われていたという旧不動坂を登った。新不動坂を登るより時間はかかったが、「いろは坂」や「万丈転」という場所を通ったり、「外不動（清不動）」の跡地を見たりと、自然と歴史を感じながら歩くことができた。また、現地の案内の方の話もたくさん聞くことができ、非常に良い経験となった。このようなイベントは、人々に高野山への興味関心を持たせ集客するいい機会であると思う。イベント後には高野山大学の村上先生の講演に参加し、高野七口の成り立ちなどを学んだ。多くの地元の方々に交じって講演を聞いて、改めて私たち

の知識や高野七口での活動の少なさを実感した。実際に高野七口を歩くことで、それぞれの道の現状を把握し知識を深める必要があると強く思ったので、今後は高野七口での現地調査を増やしていきたい。

・最終イベント 下見・準備

同じ観光学部の学生を参加の対象としたバスツアーのイベントの企画を一から行った。どこを回るのかどのように回るのかを考えるにあたって、下見と調査のため四回にわたり高野山に赴いた。調査をしていくうえで、その道に対する知識の有無によって、感じ方や面白みが変わることを実感した。そこで、メンバー各々が持っている知識の拡充と共有を重点的に行った。また、イベントに協賛してくださる企業探しを初めとした様々な業者および大学との交渉、観光学部生へ参加の呼びかけ、参加者向けのしおりや、案内する際に説明にむらがないよう実施マニュアルの作成などをメンバー全員で役割を分担して実施した。一から自分たちで企画することはプランニング能力の向上につながった。なおイベントの準備を始めるのが遅かったことが原因で、いくつかの妥協点が生まれてしまったのも事実である。もっと早い段階から話し合いを始めることや、時間が無ければ無いなりにコンパクトで的確な会議をしていくことで改善していこうと思う。また、考える過程で今ある高野山の地図の不正確さに気づき問題に感じた。このような気づきも自分たちの成長の証だと思う。



・カセサート大学附属校のタイ人学生 町石道案内



和歌山大学タイフィールドプログラム (WTP) という異文化交流のプログラムに協力し、日本人とタイ人の高校生三十名を高野山に招いた。今回は町石道二十四、二十五町石目から大門口までの大門口を自分たちでコース策定し、実際に案内した。登山中は町石の説明や、昔の人がこの道を参詣道として登ったということを私たちの慣れない英語で必死に伝えた。また、公式ガイドの方に中の橋から奥の院を案内して頂いたのだが、公式ガイドの方の英語は分かりやすく、高野山の魅力を伝えるための表現など勉強になった。タイの学生と交流しながら案内したことで、動作を交えて

説明するなど、言葉が通じない時の対応ができるようになった。気になった点は、活動の中で学生が写真を撮るために立ち止り、列が詰まってしまうなど、大勢で歩くことで起こる問題が度々あったことだ。このようなことは撮影スポットを把握してもらうなど、大人数を案内するうえでの対策を事前の計画・準備を入念にすることで解決していきたい。

・森林鉄道イベント参加

橋本市が主催する森林鉄道跡ウォークイベントにスタッフとしてメンバーの二人が参加した。イベントの内容は、奥の院から紀伊新谷駅までの森林鉄道跡を巡りながらウォーキングするもので、一般の人が約二十名参加するものであった。来年度以降に生かすことができるだろう森林鉄道の知識を得ることができた。一方、道中ゴミが広範囲に捨てられている場所があり、歴史のある所であるのに残念で、解決する必要がある問題だと思った。また、事前に参加者用の資料作成や参加者に向けての説明など、スタッフとして活動することで、その難しさとともに自分たちの知識の乏しさを実感した。このような機会がある時はもっと深い部分まで事前学習をしようと思う。また、森林鉄道が若者を高野山に呼べる新しいツールであると考えするなど、あらゆる観点から高野山の魅力を発見できるようになった。



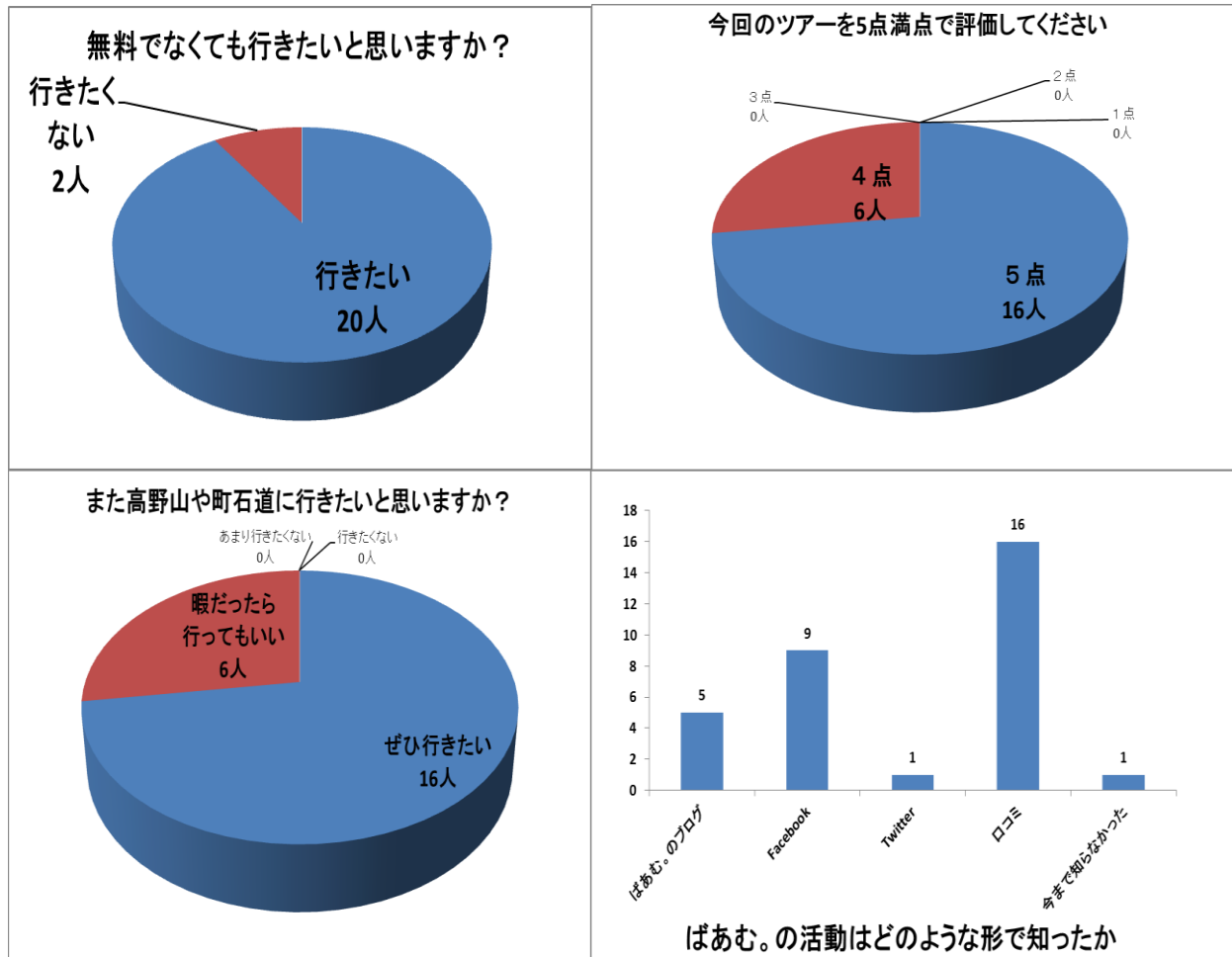
・最終イベント 「ばあむ。」主催ウォークイベント

検討を重ねた結果、和歌山大学を集合・解散地とし、高野七口の一つである町石道の二十五町石目付近から大門までと、金剛峰寺とその周辺、そして奥の院の中の橋から弘法大師御廟までを参加者と一緒に歩きながら私たちが案内するという行程を組んだ。参加者をグループに分け、各グループに二人のメンバーを入れることで、より案内しやすくした。イベントには株式会社キャリア・ブレスユー様に協賛して頂いたおかげで、参加者が無料でツアーに参加できることになり、また目標であった約三十名の集客にも成功した。普通のツアーでなく、学生だからこそできるツアーにするため、「若年者を対象に高野山の何を売り出し、またどのような方法で発信すべきであるか」という議題について参加者とメンバーと一緒に考えるグループワークを行い、観光学部である参加者には、観光地が抱える問題について考えるいい機会になったと思う。私たちも事前調査やリハーサル、コース決め、しおり作りや宣伝、拡散などの過程からツアーを運営することの大変さを学び、観光学部としての成長を感じることができた。一方でまだまだ個人の働きにバラつきがあるなど問題点もあり、これを解決するためにはさまざまな工夫を考える必要がある。



最終イベントを終え、私たちは事後学習として、メンバーがそれぞれ「全体として」「グループとして」「個人として」の三つの視点からよかった点と悪かった点をまとめた。改善点として、「余裕のあるタイムスケジュールにする。」「参加者のおみやげを買う時間を考慮する。」「メンバー間での伝達をよりスムーズにする。」などがあげられた。また、今回参加者のみなさまに協力していただいた事後アンケートの結果は全員で共有し、今後の活動に繋がるものとなった。

以下は参加者のアンケート結果の一部



● 今後の展開

今期の活動の中で、ウェブ上に掲載されている奥の院の地図の不明確さや、高野山の地図が少ないことに私たちは問題を感じた。なので、私たち自身が実地調査を行い、見やすくて人に興味を持たせられるような高野山の地図を作ろうと考えている。地図を作ると同時に、高野山にある飲食店や土産店などの店をまわり、私たち若者の目線からその店がどんな店で何がよかったかをブログなどで紹介していく予定である。そしてこれらの資料を観光庁に提供し、高野山開創1200年記念祭に役立てるものにしたいと思っている。また、私たちは高野七口すべてを登りきれたわけではないので、まだ登ったことのない道に足を踏み入れていきたいと思う。これらの活動を行うと同時に、私たちの主催イベントを何らかの形で（例：講演会などの座学）、学生・地域の人・外国人に、高野山のことをより多くの人に知ってもらえる場を作りたいと考えている。そのためにもより一層の知識が必要であるため、私たち自身も講演会などに積極的に参加していきたい。私たちの活動が少しでも高野七口周辺の活性化になるよう努めていく。また、これからも続いていく活動なので、グループ内をどのように運営すれば皆がまとまりそれぞれ行動できるかを模索することで、マネジメントの仕方についても学んでいこうと思う。